

千葉県勝浦市周辺における 1605 年慶長津波の状況

行谷佑一* (産業技術総合研究所)

§ 1. はじめに

慶長九年十二月十六日 (西暦 1605 年 2 月 3 日) に発生した地震津波 (以下、慶長津波) は房総半島から九州にかけて広く押し寄せた (渡辺, 1998, 東大出版会). この地震の地震像としては, 東海側に限れば東海道沖と相模トラフ沿いが同時に破壊した地震 (相田, 1981, 震研彙報 p367-390) や, 伊豆一小笠原海溝沿いの地震 (石橋・原田, 2013, 地震学会予稿) などが提案されており, 統一した見解に至っていない.

ところで, 房総半島におけるこの津波の被害状況は『当代記』や『房総治乱記』などに記されている. とくに『房総治乱記』には「先潮災ニ逢シハ」とした上でその「潮災」を受けた集落として九十九里浜の片貝から房総半島南端の横渚までの 35 の具体的な集落名が挙げられている (都司, 2018, 津波工学研究報告).

この記述などを参考に, 羽鳥 (1975, 震研彙報 p171-185) は外房地域の津波の高さを 5-7 m と推定している. 都司 (2018) は『房総治乱記』に記される集落名の出順や漢字の誤りなどを根拠に, 勝浦城下付近の住人がこの史料の筆者であると結論している. さらに都司・他 (2018, 津波工学研究報告) は『房総治乱記』にある各集落などにおける被害の状況と地盤高の情報とからいすみ市で 17.5 m の津波高や鴨川市で 17.1 m の津波高であったことを推定している.

一方で, いすみ市と鴨川市の間に位置する勝浦市周辺では 3.5 m の津波高 [都司・他 (2018)] などと推定されており, 周辺地域に比べてかなり津波高が低い. これは, 勝浦市沢倉浜から鴨川市小湊までの間の約 12 km の海岸線に位置する集落名が『房総治乱記』には出てこず, しかも『房総治乱記』の筆者が勝浦市在住であることから, 被害がさほどでもなかったという考察に基づいている [都司 (2018)].

周辺地域に比べ津波高がかなり低いという特徴は慶長津波の波源モデルを構築する上で重要な情報になる可能性がある. 本研究では, この勝浦市周辺における慶長津波が周辺に比べ低かったという考察に対して補強する情報を得たので報告する.

§ 2. 勝浦湾沿岸の慶長津波の情報

勝浦市内の郷土史家である引田作蔵氏により, 『私説勝浦史』 [引田 (1970, 勝浦市立図書館蔵)] が出版されている. 同資料は勝浦市内に残る歴史資料を根拠におもに中世や江戸時代における勝浦市の歴史をとりまとめたものである. 同書には, 勝浦集落

の慶長六年十月二日 (1601 年 10 月 27 日) における全戸数などが記された『慶長六年辛拾月二日 上総国伊保庄勝浦之郷御縄打 水帳』 (久我家所蔵) や, 『慶長六年辛丑十月 日上総国伊保庄勝浦田畑屋敷反別帳』 (勝浦名主岩瀬家所蔵), 天正十九年五月一日 (1591 年 6 月 21 日) 付けの植村土佐守による史料 (土屋家所蔵) などが掲載されている. いずれも, 慶長津波よりも前に成立した史料であり, 引田 (1970) はこれらの史料が慶長津波による流失を免れ各家に残されたことを指摘している.

§ 3. 勝浦湾沿岸の慶長津波の高さの推定

本研究では引田 (1970) の考えをもとに, やや間接的ではあるが, 史料が残存した久我家, 岩瀬家, および土屋家の位置がわかれば, 慶長津波の浸水はそれよりも低い位置であると推定した. そこで, これら 3 家の当時の位置について勝浦市教育委員会生涯学習課を通じて調べた. さらに, それらの位置における標高値も測定した.

この結果, これらの 3 家の前の道路面における標高値は 4.7 m - 7 m となることがわかった. 海岸からの距離については, 埋立地も含めた現在の海岸線からの距離にはなるが, 100 m - 400 m 程度に位置することもわかった. すなわち, 勝浦湾沿岸における慶長津波はこれらの値よりも小さかった可能性が高いと考えられる.

ところで, 勝浦湾よりもさらに西に位置する勝浦市興津には妙覚寺が存在し, 同寺所蔵の記録『上総興津村広栄山妙覚寺継図写』 [寺尾 (2005, 身延論叢)] に慶長津波の記事が記されている. それによれば「戌ノ時大地震、即時ニ津波入、諸浜ノ人馬鎬狗ニ至マテ海上ニ引出ス、船魚家皆山谷ヘ打上ル」などと記されており, 津波により近隣で大きな被害を出したことが記録されている. しがしながら, 妙覚寺自体には直接大きな被害はなかったと解釈されている [伊藤・都司 (2007, 歴史地震)]. 都司・他 (2018) によればここでの津波の高さは 5.1 m 以下と推定されている.

§ 4. まとめ

本研究で推定した勝浦での慶長津波の高さは, いすみ市や鴨川市といった周辺地域に比べ低い可能性があるだろう. 繰り返しになるが, ここで扱った勝浦湾沿岸や興津は『房総治乱記』には記されていない集落であり, 被害が小さかったために集落名が記されなかった可能性は否定できない.